

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 17 日作成)

小委員会名	電気室の漏洩磁場刊行小委員会		主査名：新納 敏文 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主査名：佐土原 聡
設置期間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「電気室から漏洩する磁場の予測・対策・計測評価技術」の刊行</li> <li>・初年度：刊行（1 月予定）</li> <li>・2 年度：販売促進・普及活動</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：新納敏文（鹿島建設），幹事：久保直也（きんでん），榊原宏行（関電工）， 委員：石塚一男（リケン環境システム），宇治川 智（鹿島建設），國分 誠（清水建設），篠 健次郎（電機資材），田代英太（波動システム研究所），増原秀樹（日立製作所） 計 9 名		
設置 WG (WG 名：目的)			
2013 年度予算	53,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	「電気室から漏洩する磁場の予測・対策・計測評価技術」
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	・予定通り刊行（2014 年 1 月 20 日）
委員会活動の問題点 ・課題	無し

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2013 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>予定通り、2014年1月に「電気室から漏洩する磁場の予測・対策・計測評価技術」を刊行した。</p> <p>刊行までの工程を以下に記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿案完成（6月）</li> <li>・内部査読（7月）</li> <li>・刊行計画書提出（7月）</li> <li>・電磁環境運営委員会査読（8月）</li> <li>・修正→脱稿（11月）</li> <li>・刊行（1月）</li> </ul>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。